

② 道徳教育に関する研究

51年度「道徳教育全体計画の改善」の研究をしたが52年度は学校の全教育活動の中で養う道徳性及び特設の道徳の時間でねらう道徳性の評価のあり方について研究した。

2 教科における学習能力の発達と授業に関する研究

(1) 研究の視点

この研究は、児童・生徒の学習能力開発の一環として調査研究したものである。本年度は3年次計画の最後の年として51年度に引き続き、児童・生徒の学習能力が授業を進めていく中で、どのような形成過程をとるかをさらに究明するために、従来の学習方式を生かしながら、指導のたしかめをどう行い、どのように生かすかという観点から研究を進めた。

(2) 研究内容与方法

小学校の2教科(3年生国語・6年生社会)を対象にして、主として実際の授業の面から、当面の学習において伸ばしたい能力と、先行経験によって得られた前提能力の両面を考え、学習活動を通して伸びつつある能力や、伸びなやんでいる児童・生徒の学習能力の実態や問題点を究明した。

- ① 前提となる能力の研究
- ② 学習過程における子供の反応に即した指導の方策の研究
- ③ 形式的・総括的評価のあり方についての研究
- ④ 教科における到達度目標設定の研究
- ⑤ 研究協力員(福島市立第三小学校・同森合小学校)による実証授業

(3) 研究の概要

① 国語科

文章構成能力を小学校3年「手紙文」の教材をもとにして「段落ごとにまとめる能力」の観点から授業を通して追求した。

研究の内容は次のとおりである。

- ・事がらを段落ごとにまとめて書く場合、児童がつまづく困難点を明らかにし、それに対する指導の研究
- ・文章を書く場合の構成メモの指導
- ・授業過程における「たしかめ」の研究

授業前、授業展開過程、教材終了時、単元・学期終了時に行う評価の相互の関連と、各々の評価独自の機能を明らかにし、本年度は主として授業展開過程における評価のあり方について研究した。

② 社会科

資料活用能力の効果的な評価のあり方を、小学校6年の授業を通して追求した。

研究の内容は次の通りである。

- ・指導過程の中で「望ましい資料」「資料提示の機会」についての研究
- ・資料活用能力の評価のあり方の研究
評価の観点とその方法

3 福島県診断標準学力検査問題の研究

(1) 研究の視点

当教育センターの学力検査問題を継続して検討しながら県内の小・中学校児童・生徒の学力の実態をは握して、その変容をとらえ、教育課程や学習指導改善のための資料とする。

特に今年度は、新教育課程実施に対応するための学力テスト問題の全面改訂と、テスト所要時間40分の問題作成を行った。

(2) 研究内容与方法

① 福島県診断標準学力検査問題の研究

ア 国語・算数科について小学校4・5・6学年用の問題を作成し、県下小学校50校4,000人を地域区分A・B・Cの各層より抽出して、標準化のための予備テストを行った。

イ 社会・理科については同じく小学校4・5・6学年用の問題を作成し、県下小学校より地域区分A・B・Cの各層より14校抽出し、検査問題の妥当性検討のための第一次予備テストを実施した。

② 福島県診断標準学力検査の実施

小学校第6学年の課程終了時における児童の学習の習得状況をは握するため、中学校1年生を対象に国語・算数の2教科で生徒数1,000名を地域区分A・B・Cの各層より24校抽出し実施した。データ処理にはコンピュータを使用し、教科指導の手がかりを究明した結果は報告書による。

4 教育相談の基礎的研究

(1) 研究の視点

教師の教育相談はどのような態度で、実践されているかの具体的な状況をj知るため、幼稚園、小学校・中学校・高等学校の教師に、自作した「スクール・カウンセラー・テスト」を行い、それぞれの場面における反応の実態をは握し、教師の相談に取り組む態度の概要をとらえることを目的として実施した。

(2) 調査の方法

① 調査対象

昭和52年度教育センターの各種講座受講者660名及び郡山女子大学短期大学部保育科学生40名の協力を得て、計700名を対象とした。

② 調査内容

調査は、質問紙法により実施したが、その内容は次のとおりである。

ア 設定された相談場面における相談態度の傾向

イ 学校における相談活動の実態

(3) 結果の考察

① 教育相談を行う上で最もたいせつであるといわれている、理解の態度をとる教師がきわめて少ない。

② 叱責よりもほめてやることの基礎となる支持的態度も不足している。

③ 早期幼児教育をあずかる教師集団の教育相談への理解と関心を深めることが急務である。